

ECO REPORT 2004

環境のために、  
私たちができること。

2003年度環境報告書



コカ・コーラウエストジャングループ

発行:2004年3月



目次  
CONTENTS

目次	1
ごあいさつ	2
2003年ハイライト	3
私たちの基本理念	7
私たちの行動指針	8
事業活動と環境影響	9
環境会計	11
生産活動	13
輸送活動・営業活動	16
回収・リサイクル活動	18
環境マネジメント活動	19
社会貢献活動	20
環境負荷データ	23
第三者審査報告書	25
環境保全活動への 取り組み(年表)・会社概要	26

対象範囲

コカ・コーラウエストジャパン株式会社 (CCWJ)  
 コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 (プロダクツ)  
 西日本ビバレッジ株式会社 (ビバレッジ)  
 コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社 (ベンディング)  
 西日本カスタマーサービス株式会社 (カスタマー)  
 ロジコムジャパン株式会社 (ロジコム)

上記の他、一部のグループ会社、協力会社を含みます。  
( )内は略称です。

対象期間

2003年1月1日～2003年12月31日  
(掲載項目の中には、一部対象期間外のものも含まれています。)

次回発行予定

2005年3月

ごあいさつ

グループが一体となって、豊かな社会の実現に貢献します。

私たちは企業市民として、人類が豊かさを求めれば求めるほど地球環境に負荷がかかることを、きちんと自覚しなければなりません。またそれとともに、一企業としてだけでなく、飲料メーカーの社会的責任として環境問題に取り組まなければならないと考えています。

そのために、私たちは環境好感度No. 1企業を目指し、7つの行動指針を掲げ、グループが一体となって環境保全活動を実施することとしました。その中で、社員一人ひとりがこの考えを理解して環境問題を真摯に受け止め、積極的に取り組んでいます。

具体的には、北九州工コタウン地区(福岡県北九州市)において空容器の再資源化を推進する施設「北九州さわやかリサイクルセンター」の建設を完了させ、年間1万トンの空容器再資源化に向けて稼動を開始しました。さらに今後は、2005年までにグループとしてISO14001認証取得を完了し、2007年までに温室効果ガス削減計画に沿って、2000年対比で20%の温室効果ガスを削減することを目標に取り組んでまいります。

また、社会貢献活動の一つとして取り組んでいる地域に対する積立金は、活動を開始してから今年で12年目を迎えることになりました。これからも、みなさまのお力をお借りしながら継続してまいります。

今回の環境報告書は2003年ハイライトを掲載する等、みなさまに読みやすく内容が伝わりやすいよう工夫いたしました。また第三者審査を受審することで、内容の信頼性と透明性の一層の向上にも努めています。

この環境報告書を通じて、みなさまのご意見・ご指導を賜れば幸いに存じます。



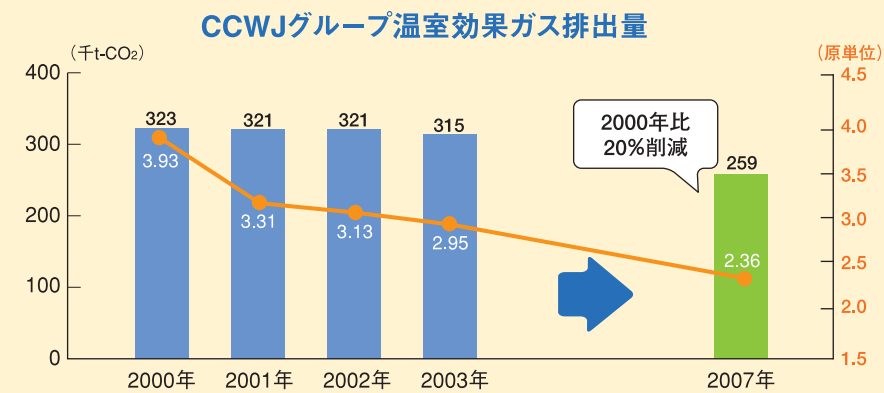
代表取締役  
社長兼CEO

末吉紀雄



## 温室効果ガス削減計画策定

私たちは2007年時点において2000年対比で温室効果ガス排出総量20%削減、原単位ベースで40%削減するという計画を策定、京都議定書目標の実現に貢献していきます。具体的対策としては、生産部門におけるエネルギーの天然ガス化、コージェネレーションシステムやエネルギー監視システム導入、物流部門におけるエコドライブ徹底、事務部門における空調管理徹底、さらには自動販売機の電力消費によって発生する温室効果ガスを高効率な環境配慮型自動販売機の積極的導入で削減させるなど、自ら設定した高い目標の達成に向け全グループ一丸となって取り組みます。



※ より実態に即した把握を行うため、CO<sub>2</sub>の排出係数は該当地域の電力会社から公表されている数値を採用しています。  
 ※ 飲料自動販売機の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出量を含めています。  
 ※ 原単位=CO<sub>2</sub>排出量(kg) / 生産量(Uケース)  
 ※ 1Uケース=約5.68ℓ

### 解説

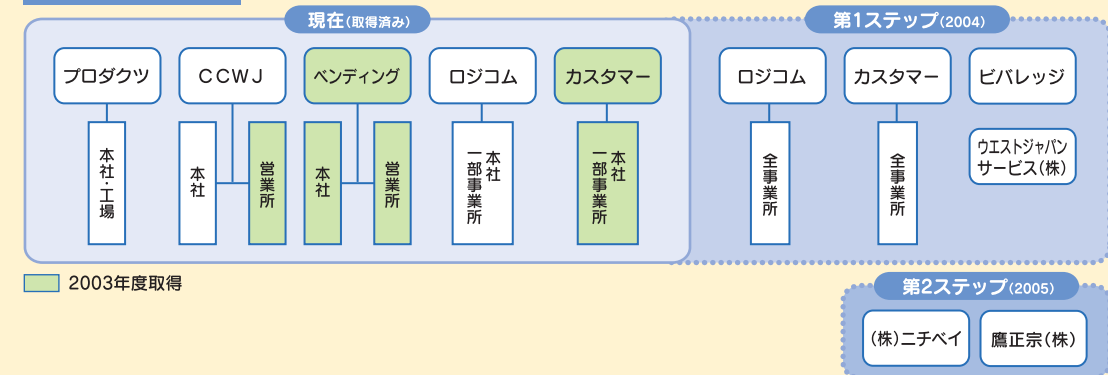
**京都議定書**  
 地球温暖化対策のための国際的な枠組みであり、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>やメタンなど6種類)の排出削減を図る。日本は、2008～2012年に1990年比6%削減を約束しています。



## ISO14001認証取得の拡大

ISO14001とは、国際標準化機構(ISO:International Organization for Standardization)が発行した、環境マネジメントシステムの国際規格です。「環境マネジメントシステム」とは、組織の活動によって生じる環境への負荷を常に低減するよう配慮・改善するためのしくみのことをいいます。2003年度は当社の営業所部門、コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社の全事業所や西日本カスタマーサービス株式会社の本社部門などにおいて、ISO14001認証を取得しました。今後は、グループ9社・全事業所でのISO14001認証取得を目指します。

### ISO拡大のイメージ



## 誠実な情報開示を目指して—第三者審査受審

当社は2000年度より環境報告書を発行し、環境保全活動の実績や今後の展望などを読者のみなさまにお伝えしてきました。この環境報告書を通して環境に対する活動をより深くご理解いただければと考えております。また、活動内容をより正確にお伝えるために、第三者審査(あずさ監査法人)を受けました。より信頼性・透明性の高い環境報告書を通じて、みなさまとのコミュニケーションを一層深めることができれば幸いです。



## 北九州さわやかリサイクルセンター

当社は北九州市若松区の北九州エコタウン地区において、2003年10月、空容器処理施設「北九州さわやかリサイクルセンター」を完成させました。

これまで、当社の自動販売機に併設した空容器回収箱から回収するアルミ・スチール缶やペットボトル、ガラス壺は各営業所が外部に委託して処理を行っていました。「北九州さわやかリサイクルセンター」の完成により、福岡県・佐賀県から回収したこれらの空容器は機械や手作業で選別され、プレスなどの加工を経てそれぞれのルートにわけてリサイクルされます。

この方法で、年間最大1万トンの空容器がリサイクルできるようになります。



▲北九州さわやかリサイクルセンター



▲回収した空容器は一つひとつ手作業で分別され、プレスした後リサイクルされます



現在、空容器回収箱の中にはタバコの吸い殻や弁当箱など、空容器以外のさまざまな物が混入しています。リサイクルはまずそれらを取り除くところからはじめなければなりません。私たちは飲料メーカーの社会的責任として、確実に、そして効率的にリサイクルを実施していきたいと考えております。みなさまにもゴミの分別などの面でご協力いただき、環境保全活動を進めていきたいと思っております。

P18



## 学校ビオトープ



「ビオトープ」とは、ドイツ語のBIO(生き物)とTOP(場所)の合成語で、「それぞれの地域の、野生生物の生息空間」を意味します。池や沼、小川、雑木林、草原など、虫や小動物が生息する場所がビオトープです。

当社は、次代を担う子どもたちに自然環境の尊さを感じてほしいという思いから、2003年度に6校へ資金と技術を提供し、ビオトープづくりに貢献しました。児童が自分たちで考えた設計をもとに教職員や父母などと協力して手作りで完成させています。当社が「ビオトープ」づくりに貢献したのは、現在までに11校。自然環境の授業や環境教材として有効に活用されています。



◀手作りのビオトープ



◀観察する子どもたち

P20

## 地域社会貢献積立金・地域環境対策積立金

当社は、地域とともに豊かな社会づくりに取り組むために、株主のみなさまからご理解をいただき、1993年度より毎年の利益処分の中から社会貢献のために2億円を積み立ててまいりました。1999年度からはこの積み立てを3億円とし、環境を含めて広く地域社会のために活用しています。この積立金により、学校ビオトープなど地球環境の大切さを学ぶさまざまな機会を提供しています。



つみたてマーク








P20

## 環境好感度No.1企業へ

### 私たちの基本理念

コカ・コーラウエストジャパングループは、  
責任ある企業市民としての自覚のもとに、  
人間・社会・自然の調和を常に大切にしながら事業活動を推進します。  
海と山に囲まれた自然豊かな中国・北部九州地区で  
清涼飲料の製造・販売と、それに関わる各種事業を行う私たちは、  
環境美化・環境保全・資源のリサイクルに努めることが  
お客様や地域社会に対する責務と認識しています。  
全社員がそれぞれの職場で自ら責任を持ち、  
安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献します。

### 私たちの行動指針

-  クリーンで安全な商品・サービスを提供します。
-  エネルギー使用の効率化を推進し、地球温暖化を防止します。
-  水を有効に活用し、水資源の保護に努めます。
-  廃棄物の削減・リサイクルに努め、循環型社会の実現に貢献します。
-  環境保全・資源のリサイクルに優れた資材の購入に努めます。
-  地域における環境活動に積極的に取り組みます。
-  環境教育・広報活動を通じ、人材の育成に努めます。

# 事業活動と環境影響

環境負荷を低減させることは私たちの責任です。

CCWJグループの事業活動全体の流れ、およびその事業活動に伴う資源等の投入（インプット）と不要物等の排出（アウトプット）の概要を以下の図に示しました。



# 環境会計

CCWJグループでは、環境保全活動に投入されたコストと得られた効果を把握する環境会計を導入することで、より効率的な環境保全活動を推進しています。詳細な環境保全活動やコスト対効果の内容については、該当のページに記載しています。

## 環境会計計算書

事業活動	対応する行動方針	該当ページ	環境保全の取り組み	環境保全コスト (単位:千円)	経済効果 (単位:千円)	主な環境保全効果 (2003年度)	関連する環境負荷指標		
							指標の内容	2002年度	2003年度
生産活動	④	P13	生産工程で発生する廃棄物のリサイクル(ゼロエミッション)	114,084	3,637	リサイクル率 99.2%	廃棄物排出量	25千t	30千t
	③	P14	水資源の効率的利用(用水循環システム)	18,051	30,873	水回収使用量 1,195千m <sup>3</sup>	水使用量	2,804千m <sup>3</sup>	3,383千m <sup>3</sup>
	②	P14	エネルギー監視システム、コージェネレーションシステムの導入	10,343	14,934	エネルギー監視システムによるエネルギー投入削減量 2004年度から2008年度にかけて段階的に8%削減 コージェネ導入によるCO <sub>2</sub> 排出削減量 0.3千t-CO <sub>2</sub>	電力投入量	47,447千kWh	54,936千kWh
	③	P15	排水処理活動	272,110	-	法令遵守(水質汚濁防止法、条例等)	燃料投入量(原油換算)	14,183kℓ	15,551kℓ
	③ ④	P15	環境負荷監視、汚染防止賦課金等	9,689	-	環境負荷の監視	温室効果ガス排出量	59千t-CO <sub>2</sub>	64千t-CO <sub>2</sub>
輸送活動	②	P16	輸送の効率化 エコドライブ エコカーの導入	4,206	447	エコカー導入によるCO <sub>2</sub> 排出削減量 15t-CO <sub>2</sub> 大気汚染物質排出削減	車両燃料投入量(原油換算)	10,209kℓ	9,821kℓ
営業活動	② ⑤	P17	環境配慮型自動販売機の設置	135,280	-	省エネの進んだ自動販売機導入に伴う消費電力削減 省エネの進んだ自動販売機導入に伴うCO <sub>2</sub> 排出削減 環境配慮型自動販売機設置台数 107千台	車両に伴う温室効果ガス排出量	28千t-CO <sub>2</sub>	27千t-CO <sub>2</sub>
	② ④	P17	廃自動販売機の適正処理 フロン回収破壊処理	37,639	-	フロン回収(破壊)量 2.6t	飲料自動販売機に伴う電力投入量	488,162千kWh	468,380千kWh
							飲料自動販売機に伴う温室効果ガス排出量	227千t-CO <sub>2</sub>	218千t-CO <sub>2</sub>
回収・リサイクル	① ④	P18	空容器の回収・リサイクル フレッシュネス管理	797,935	27,489	空容器の自社回収量 21.4千t 空容器からの有価物選別量 1.5千t	飲料自動販売機設置台数	155千台 ピバレッジ除く	174千台 (153千台) ( )内ピバレッジ除く
環境マネジメント活動	⑦	P19	環境マネジメントシステム構築・運用 従業員の環境教育訓練	47,043	-	グループでの延べ教育時間 9,588時間	環境保全効果	できる限り定量的に算出を試みており、環境保全活動を実施しなかったと仮定した場合に想定される環境負荷量と、環境保全活動を行った場合の環境負荷量の差を効果として算出しています。環境保全活動が行われたことにより負荷が抑制されたと考えています。	
	⑥ ⑦	P19	環境コミュニケーション	7,370	-	環境コミュニケーションの充実	経済効果	環境保全活動に伴う収入額・節減額を計上しています。	
	⑤	P24	グリーン購入	-	-	紙類・印刷物・文具類・制服・空容器回収箱のグリーン購入率 97%			
社会貢献活動	⑥	P20~22	社会貢献活動	69,924	-	エコサイエンスなど環境教育に参加した人数 約4,500人			
合計(単位:千円)				1,523,674	77,380				

項目	内容
集計対象範囲	CCWJ、プロダクツ、ピバレッジ、ベンディング、カスタマー、ロジCOMの6社
集計対象期間	2003年1月1日~2003年12月31日
参考ガイドライン	環境省「環境会計ガイドライン2002年版」
表示方法	事業活動のプロセス別に環境保全の取り組みを計上しています。環境保全活動をより深く理解していただけるように、環境保全コストとそれに伴う環境保全効果、関連する環境パフォーマンスを複合した一表にて開示します。
環境保全コスト	複合コストの計上方法:原則的には差額集計を採用していますが、必要に応じて按分集計、簡便集計を採用しています。減価償却費の計上方法:環境保全関連施設の耐用年数や償却方法は、基本的に財務会計と同一としています。人件費の計上方法:環境保全活動における所要時間に全従業員の年間平均人件費単価を乗じて算出しています。
環境保全効果	できる限り定量的に算出を試みており、環境保全活動を実施しなかったと仮定した場合に想定される環境負荷量と、環境保全活動を行った場合の環境負荷量の差を効果として算出しています。環境保全活動が行われたことにより負荷が抑制されたと考えています。
経済効果	環境保全活動に伴う収入額・節減額を計上しています。



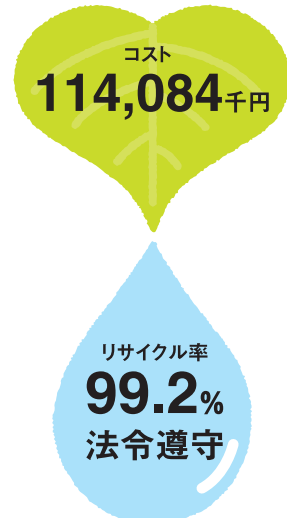
ECO REPORT 2004

# ゼロエミッションへの取り組み

ゼロエミッション、それは廃棄物有効利用への努力の証です。

## 生産工程で発生する廃棄物のリサイクル

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額			
リサイクル(コーヒーかす・茶かす)	—	80,460	3,637	リサイクル率	99.2%
リサイクル(汚泥)	—	27,464		廃棄物処理能力の維持	
リサイクル(その他全て)	—	6,160			
合計	—	114,084	3,637		



## ECO REPORT Q&A

### Q なぜゼロエミッションに 取り組むのですか？

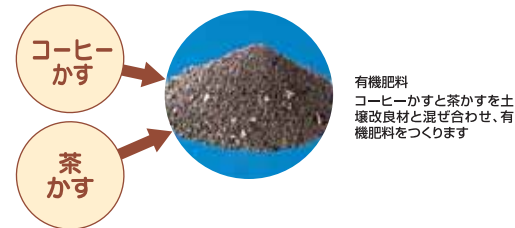
A 産業廃棄物の処分場は、あと数年で飽和状態になるといわれ、各企業の努力が必要とされています。廃棄物を再生させて繰り返し使うことにより、最終処分場で埋め立てられる廃棄物をできる限り削減します。

### Q 今後の課題は？

A コーヒーかすや茶かすなどを有機肥料として再資源化するのには、多大な経費がかかっています。今後は、廃棄物の再資源化を効率的に行い、コスト削減を図ります。

### Q どのようにしてゼロエミッションを 実現していますか？

A 廃棄物の約90%を占めるコーヒーかす、茶かすおよび汚泥はすべて堆肥として利用できるように処理し、3工場(本郷工場、鳥栖工場、基山工場)はゼロエミッションを達成しています。



**解説** **ゼロエミッション**  
工場から排出される廃棄物を有機肥料、路盤材、熱源等に用いることで埋立される廃棄物を限りなくゼロに近づけていくことです。



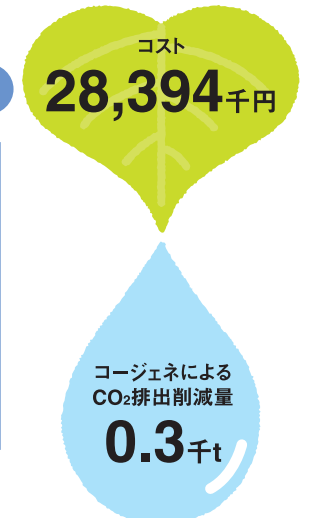
ECO REPORT 2004

# 省資源・省エネルギーへの取り組み

生産工程でのムダをできる限り削減し、省資源・省エネへの挑戦を続けます。

## 資源・エネルギーの効率的利用

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額			
用水循環設備	16,453	18,051	30,873	用水回収使用量	1,195千m <sup>3</sup>
コージェネレーションシステム	—	—	14,934	コージェネによるCO <sub>2</sub> 排出削減量	0.3千t-CO <sub>2</sub>
エネルギー監視システム	192,100	10,298	—	エネルギー監視システムによるエネルギー投入削減量	2004年度から2008年度にかけて段階的に8%削減
天然ガス対応工事	530	45	—		
合計	209,083	28,394	45,807		



## ECO REPORT Q&A

### Q 省エネ活動の特徴は？

A 効率的な発電や温室効果ガスの削減を考慮したエネルギー利用を実施しています。具体的には、エネルギー監視システムやコージェネレーション、天然ガスパイプラインを導入。その他、生産ラインのインバータ化を進めています。

### Q エネルギー監視システムによる 省エネの効果は？

A 工場のラインごとに使用する水、蒸気、エア、電力、重油等の使用量が自動的に計測、集計されます。この集計データにより、エネルギーの稼働状況が把握でき、エネルギー削減ポイントの抽出ができます。そして、製品ごとの効率的な生産につなげることができます。

**解説** **コージェネレーションシステム**  
当社のシステムは発電装置とボイラーがセットになっており、発電機から出る熱をボイラーに移すことで、ボイラーの燃料を削減し、温室効果ガスの排出を抑制する仕組みになっています。

### Q コージェネレーション 導入の効果は？

A 工場全体のエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の削減が可能となり、コスト削減にもつながっています。

### Q 今後の省エネ対策は？

A 鳥栖・基山工場の全面天然ガス化とコージェネレーションの導入を行います。







ECO REPORT 2004

# 汚染防止への取り組み

事業活動から排出されるさまざまな物質から自然を守り、水や土壌の保全を目指します。

## 汚染防止活動

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果(単位:千円)	環境保全効果
	投資額	費用額		
排水処理設備	13,382	119,341	—	COD、BOD、排水量等 下記参照
下水道使用	—	152,769	—	
環境負荷監視	4,489	3,856	—	
汚染負荷量賦課金	—	5,833	—	
合計	17,871	281,799		



## ●排水負荷・処理実績

工場名	放流先	排水量(m <sup>3</sup> /日)	測定項目	規制値(mg/l)	自主基準値(mg/l)	実績値(最大)(mg/l)
本郷工場	一般河川	2,850	COD	60(日平均30)	50.4(日平均25.0)	19
			BOD	30(日平均15)	—	10
鳥栖工場	一般河川	2,447	COD	—	45	7
			BOD	40(日平均30)	32	1.8
	下水道	2,433	COD	—	900	585
			BOD	600	480	312
基山工場	一般河川	1,889	COD	—	—	24
			BOD	30	22	15.2

注) COD:化学的酸素要求量/BOD:生物化学的酸素要求量 共に水の汚れを表す指標

## ECO REPORT Q&A

Q 排水に関してどのような取り組みをしていますか?

A 飲料メーカーとしてきれいな水を大切にするため、国や市町村よりも厳しい基準を設定し、管理を実施しています。

Q その他の取り組みは?

A 事業所の土壌管理として、2002年度と同様に2004年度も土壌分析を6カ所で実施する予定です。



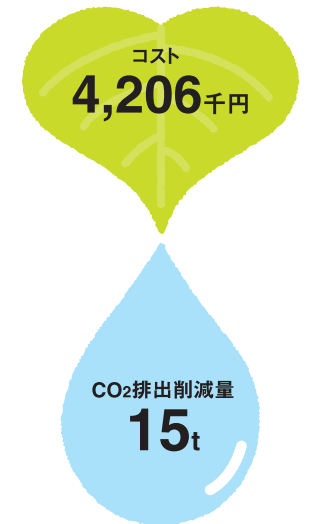
ECO REPORT 2004

# 車両活動における環境保全の取り組み

輸送・営業活動を効率的に行い、省エネや地球温暖化の防止に貢献します。

## エコドライブの推進・エコカーの導入

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果(単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額			
エコカーの導入	6,066	4,206	447	エコカーによるCO <sub>2</sub> 排出削減量	15t-CO <sub>2</sub>
				ハイブリッド車保有台数	11台
				天然ガス車保有台数	12台
				LPG車保有台数	2台
合計	6,066	4,206	447		



## ECO REPORT Q&A

Q 車両における環境配慮はどのようなことが必要ですか?

A 2001年度、環境省によると地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量は、運輸部門が全体の22.0%を占めているそうです。その深刻な状況を改善するため、車両から排出されるCO<sub>2</sub>を削減する必要があります。また、大気汚染の原因となるNO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>の低減も必要となります。

Q 今後の取り組みは?

A グループで低公害車導入やエコドライブの徹底で温室効果ガス削減計画に基づき2007年のCO<sub>2</sub>排出量20%(2000年比)削減に貢献します。

Q 2003年度は具体的にどんな事を実行し、どのような効果がありましたか?

A 環境に配慮したハイブリッド車、天然ガス車を8台導入しました。またグループ全体でエコドライブを推進し、特にロジコムでは燃料効率の10%向上を実現しました。



▲エコドライブ推進ポスター



▲エコカー

### 解説

#### 天然ガス車

天然ガスを燃料とした車は、ディーゼル車と違って大気汚染の原因となるSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)と黒煙を全く出さず、またNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)の排出も少なくなっています。

#### LPG車

LPGガスを燃料とした自動車です。NO<sub>x</sub>(窒素酸化物)の排出量がディーゼル車の半分以下なのに、ガソリン車よりも一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)の排出が少ないのが特徴です。



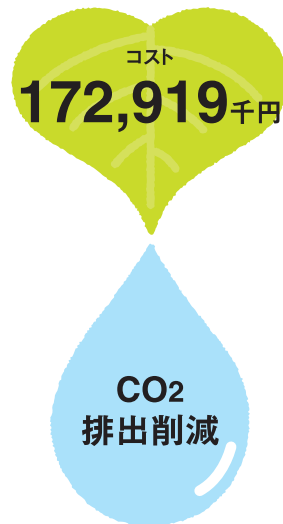
ECO REPORT 2004

## 営業活動における環境保全の取り組み

地球に負荷の少ない自動販売機を導入し、環境保全に努めます。

### 環境に配慮した自動販売機の導入

環境保全の取り組み	環境保全コスト (単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果
	投資額	費用額		
環境配慮型自動販売機の設置	—	135,280	—	環境配慮型自動販売機設置に伴うCO <sub>2</sub> 排出削減
自動販売機廃棄処理委託費	—	37,104	—	
フロン回収(破壊)委託費用	—	535	—	フロン回収(破壊)量 2.6t
合計		172,919		注:フロンについては、CCWJのみ集計



### ECO REPORT Q&A

**Q** 営業活動ではどのような環境配慮をしていますか？

**A** 自動販売機使用にともなうCO<sub>2</sub>排出削減対策として、気温や販売状況に応じて効率的に電力を使用する機能を持った自動販売機を積極的に導入。また、自動販売機の廃棄時も適正に処理しています。



▲環境配慮型自動販売機

**Q** 今後の取り組みは？

**A** コカ・コーラグループの中でも環境配慮型自動販売機の導入を積極的に計画し、温室効果ガスの削減を図っています。リサイクルするのに容易な素材を使用しており、業界屈指の省電力を誇ります。また、オゾン層を破壊する冷媒を一切使用しないノンフロン型です。2006年までにすべて環境配慮型自動販売機に切り替わる予定です。



ECO REPORT 2004

## 空容器の回収・リサイクル

不要となった空容器を有効に活用するため、リサイクルを推進しています。

### 空容器の回収・リサイクル

環境保全の取り組み	環境保全コスト (単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額		空容器回収量	有価物選別量
空容器回収・処理委託費	—	569,975	—	21.4千t	1.5千t
リサイクルステーション運営維持	—	31,928	27,489		アルミ (0.1千t) 鉄 (1.1千t) PET (0.3千t)
空容器包装リサイクル法委託費用	—	107,762	—		※ 有価物選別量のうち北九州さわやかリサイクルセンターについては稼働後の1カ月分のみを計上
フレッシュネス管理	13,680	88,270	—		
合計	13,680	797,935	27,489		



### ECO REPORT Q&A

**Q** 空容器はどのようにして回収・リサイクルされるのですか？

**A** 空容器は、営業マンおよび専門のサービスマンが自動販売機横に設置している空容器回収箱から回収します。福岡県・佐賀県の空容器は全て北九州さわやかリサイクルセンターで、中国エリアでは6カ所の自社リサイクル施設で選別・リサイクルを行っており、今後空容器の約50%を自社の施設で処理します。



▲空容器は営業マンや専門のサービスマンが回収箱から回収します



▲福岡県・佐賀県の空容器は北九州さわやかリサイクルセンターに集められます



▲空容器は人の手によって丁寧に分別されます



▲プレスされた後にリサイクルされます



ECO REPORT 2004

# 環境マネジメントへの取り組み

環境保全活動を円滑に進めるために、環境・マネジメントシステムを運用しています。

## 環境マネジメントへの取り組み

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額		延べ教育時間	9,588時間
EMS構築・運用コスト	—	21,459	—	延べ教育時間	9,588時間
従業員の教育、啓発	—	25,584	—		
環境コミュニケーション	—	7,370	—		
合計	—	54,413	—		



## ECO REPORT Q&A

**Q** 社内で、どのような環境教育を実施しているのですか？

**A** 「環境方針」携帯カードや環境啓発ビデオの作成・配布、階層別・専門別の教育を実施。また、社内報や社内ネットを活用した環境情報の提供、活動紹介などを行っています。これらの活動により、環境のために何ができるかを考え、積極的に行動できる社員の育成を図っています。



▲環境推進カレンダー  
社内キャンペーンとして環境問題に関するポスターを募集し、カレンダーを作成しました。カレンダーは全事業所に掲示し、環境啓発に努めています。

**Q** どのような環境コミュニケーションを実施しているのですか？

**A** 当社の環境活動を多くの方々に理解していただくために、環境報告書を作成しています。2002年度環境報告書(2003年発行)は「日経エコロジー」でわかりやすさ、読みやすさを追求したものと紹介されました。ホームページなども活用し、今後も積極的に情報公開を行っていきます。



▲2002年度環境報告書

▲日経エコロジー



ECO REPORT 2004

# 社会貢献活動

地域のみならずと一緒、環境保全活動を推進します。

## 社会貢献活動の内容

環境保全の取り組み	環境保全コスト(単位:千円)		経済効果 (単位:千円)	環境保全効果	
	投資額	費用額		積立金による社会貢献活動	積立金以外の社会貢献活動
積立金による社会貢献活動	—	34,765	—	エコサイエンスなど環境教育・美化活動に参加した人数	P20~22 参照
積立金以外の社会貢献活動	—	35,159	—		
合計	—	69,924	—		



## ECO REPORT Q&A

**Q** 地域社会ではどのような社会貢献を行っていますか？

**A** 子どものころから環境に対する知識や配慮を身に付けてほしいという思いから、青少年を対象とした環境教育支援を積極的に行っています。地域の環境美化、緑化活動、環境支援活動を通じて、地域社会の環境保全、環境教育、環境啓発に貢献しています。



このつみためマークは、地域社会貢献積立金・地域環境対策積立金を用いた活動を表します。

## 環境教育支援

### コカ・コーラエコサイエンス

マングローブ植林を通じて環境保護

エリア内8県下の25名の小学生が参加し、沖縄で環境体験学習「マングローブ植林学習」を実施しました。マングローブは、大量のCO<sub>2</sub>を吸収し「地球温暖化」という人類が直面している環境破壊を防ぐのに有効です。また「生命のゆりかご」とも称されるように、さまざまな魚貝類の産卵や稚魚の成育に最適な場をつくることで海の生態系の保全に重要な役割を果たしています。



▲植林をする子どもたち

▲驚きの自然観察

### 学校植林事業

自然環境の大切さと愛着心を育む

「どんぐりの森をつくろう」をキャッチフレーズに、子どもたちにどんぐりの苗木の里親になってもらい小学校の子ども、先生、父母が参加する植樹祭です。自分で苗木を6カ月かけて生長させ、山に植樹することによって自然にふれる大切さを学びます。



▲僕のどんぐりを大切に



社会貢献活動



社会貢献活動

## 環境教育支援

### 赤とんぼの街づくり運動

景観保護と環境啓発を運動テーマとして

子どもたちに自分たちが住む街の絵を描いてもらうことで、街の良さを知り、好きになってもらい、景観の保全に役立てていくことを目的としています。教育委員会や自治体、地元テレビ局と協力して行う環境啓発活動です。



←写生をする子どもたち(長崎市)



表彰式▶

#### ●参加人数

年度	実施地区	参加人数
2001年度	岡山・長崎県	650人
2002年度	岡山・長崎県	750人
2003年度	岡山・長崎県	800人

### コカ・コーラエコロジースクール

子どもたちの自然教育の支援

自然環境教育インストラクターの指導のもとに、山野の樹木、昆虫を教材に自然を体感してもらう環境学習教室です。



←学習風景(岡山市)



参加した子どもたち(岡山市)▶

#### ●参加人数

年度	実施地区	参加人数
2001年度	広島県	60人
2002年度	佐賀県	40人
2003年度	岡山・佐賀県	100人

### エコロジー調査隊



子どもたちの自然観察の支援

夏休みを利用して、子どもたちが自分たちの街の自然環境を調査し、感じたことをレポートします。新しい発見や自然との出会いによって、子どもたちに自然環境の素晴らしさを実感してもらいます。



▲パンフレット

#### ●参加人数

年度	実施地区	参加人数
2001年度	山口・福岡・佐賀県	750人
2002年度	広島・福岡・長崎県	1,200人
2003年度	広島・福岡県	600人

## 地域美化活動

### コカ・コーラクリーンデー

事業所周辺のクリーン活動を通じての地域美化活動

毎月8日をコカ・コーラクリーンデーと定め、全グループの事業所周辺で社員が歩道や公園の清掃を行っています。地域の美化と社員一人ひとりの環境啓発を目的に実施しています。



▲クリーン活動(フルサービス中央福岡営業所)

### アダプトプログラムの支援



地域の連携による美化運動の支援

アダプトプログラムとは、公共エリアの清掃・美化を市民、企業、自治体が一致協力して取り組む「街の美化活動」です。毎年、福岡市の活動を支援し、地域における美化活動の一翼を担っています。



▲一般市民によるアダプトプログラム



### ラブアーススクリーンアップへの参加

全国規模の地域美化活動

ラブアーススクリーンアップ活動は、環境省が後援する地域環境美化活動で、毎年6月上旬に全国一斉に開催されます。毎年エリア内のさまざまな場所で、社員とその家族が参加しています。



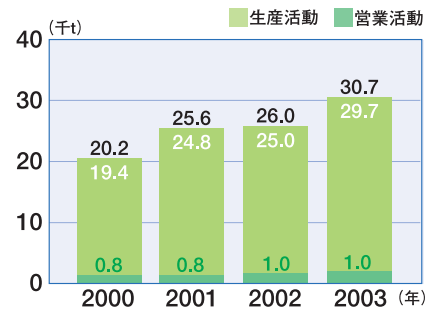
▲福岡・大濠公園

▼広島・県庁周辺

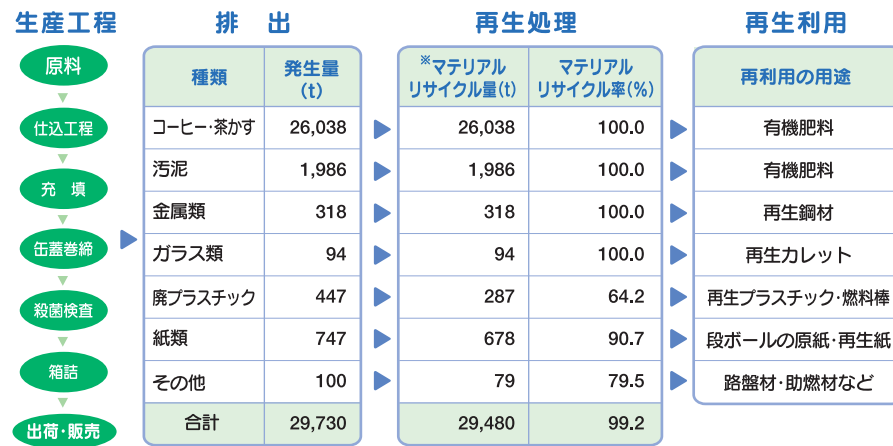


# 環境負荷データ

## ●廃棄物発生量の推移



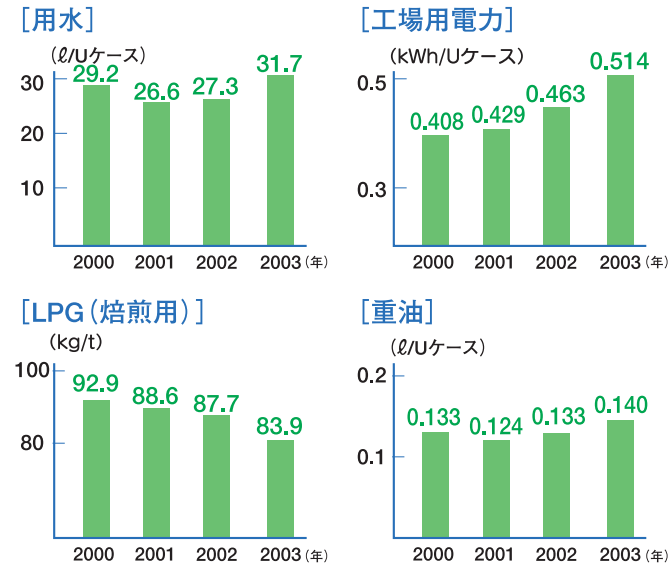
## ●廃棄物の排出



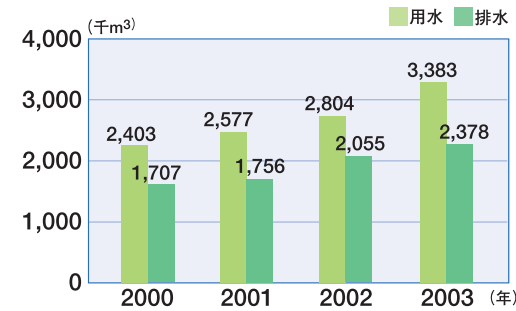
\*マテリアルリサイクル: 不要物を再生処理し、物質として再利用すること。



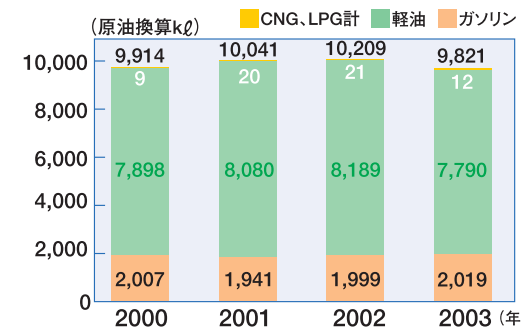
## ●省資源・省エネルギーの推移



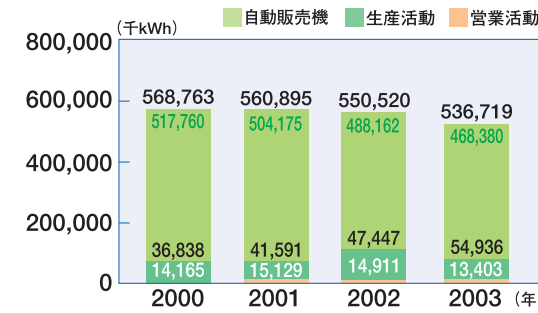
## ●用水使用量と排水量の推移



## ●車両燃料使用量の推移



## ●電力使用量の推移

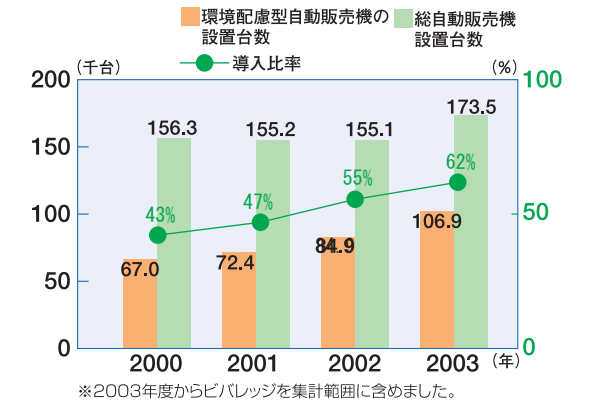


## ●グリーン購入の推進

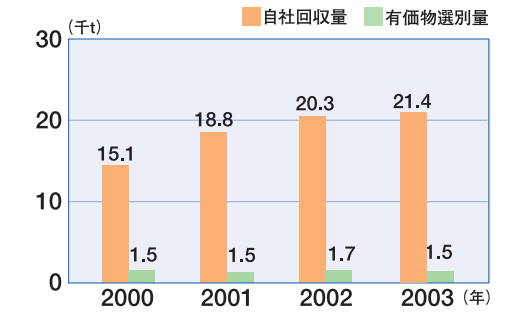
	紙類	印刷物	文具類	制服	空容器回収箱
グリーン製品	3,176	27,877	946	29,079	31,000
非グリーン製品	0	585	50	2,657	0
グリーン購入率	100%	98%	95%	92%	100%

単位: 千円

## ●環境配慮型自動販売機の設置状況



## ●有価物選別量の推移



# 第三者審査報告書

**「2003年度環境報告書」に対する第三者審査報告書**

平成16年2月27日

コカ・コーラウエストジャパン株式会社  
代表取締役社長兼CEO 末吉 紀雄 殿

あずさ監査法人  
環境マネジメント部

代表社員  
公認会計士  
環境主任審査員  
環境計量士 **魚住 隆大**

1. 審査の目的及び範囲  
当監査法人は、コカ・コーラウエストジャパン株式会社（以下、会社という）が作成した「2003年度環境報告書」（以下、「環境報告書」という）について会社と合意した特定の審査手続を実施した。審査の目的は、独立した立場から「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標の信頼性並びにその他の記述情報と会社の根拠資料との整合性について報告することである。  
なお、本年度が初めての審査であるので、2002年度以前の指標は審査の対象としていない。

2. 審査の手続  
当監査法人は、会社との合意に基づき次の審査手続を実施した。  
①「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となるデータの把握方法及び集計方法の検討  
②「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングによる会社の基礎データ及び計算の正確性の検証  
③「環境報告書」に記載されているその他の記述情報について、作成責任者への質問、コカ・コーラウエストジャパングループの工場の現場視察による状況把握、内部資料及び外部資料との比較検討

3. 審査の結果  
当監査法人の実施した審査手続の結果は次のとおりである。  
①「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標は、会社の定める方針に従い合理的に把握して集計、開示されたことにおいて、変更すべき重要な事項は認められなかった。  
②「環境報告書」に記載されているその他の記述情報は、審査の過程で入手した内部資料及び外部資料との整合性において、変更すべき重要な事項は認められなかった。

以上

# 環境保全活動への取り組み(年表)

	世界と日本の動き	コカ・コーラウエストジャパンの動き
1992年	環境と開発に関する国連会議(リオデジャネイロ地球サミット)開催	営業所エコ・リサイクルステーション導入
1993年		ラブアースクリーンアップ参加
1994年		コカ・コーラ環境教育財団設立され、加盟/環境配慮型自販機導入
1995年		
1996年	ISO14001環境マネジメントシステム制定	
1997年	気候変動枠組条約京都会議(COP3)開催	空缶選別プレス車テスト導入
1998年		環境対策室を設置/環境委員会を設置/環境宣言を発表/コカ・コーラクリーンデーを開始/ゼロエミッション達成(本郷工場・鳥栖工場・基山工場)
1999年	改正省エネ法発効	全工場でISO14001認証取得/地域環境対策積立金活動を開始
2000年	環境会計ガイドライン発表 循環型社会形成推進基本法制定 改正廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行	容器包装リサイクル法完全施行 食品リサイクル法制定 本社部門でISO14001認証取得 環境報告書の発行 エコルート導入(福岡市)
2001年	環境報告書ガイドライン発表	グリーン購入ガイドラインの制定
2002年	環境と開発に関する国連会議(ヨハネスブルグ地球サミット)開催 日本が京都議定書批准	環境会計を導入(環境報告書で開示) エコルート導入(長崎市)
2003年	第3回世界水フォーラム開催	ISO認証取得の拡大(CCWJ営業所部門・ベンディング全事業所・カスタマー一部) 北九州さわやかリサイクルセンター竣工および運営開始 環境報告書の第三者審査受審

# 会社概要

(2003年12月31日現在)

略称	コカ・コーラウエストジャパン株式会社 (CCWJ)	コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社(ベンディング)
	コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 (プロダクツ)	西日本カスタマーサービス株式会社 (カスタマー)
	西日本ビバレッジ株式会社 (ビバレッジ)	ロジコムジャパン株式会社 (ロジコム)

	CCWJ	プロダクツ	ビバレッジ	ベンディング	カスタマー	ロジコム
本社所在地	福岡市東区箱崎七丁目9番66号	佐賀県鳥栖市轟町字二本松1670-2	福岡市東区箱崎ふ頭五丁目1番6号	福岡市東区松田二丁目2番32号	福岡県古賀市谷山871番地	広島市中区東千田町二丁目11番20号
設立	1960年12月20日	2002年2月1日	2001年12月14日	1983年10月20日	1972年9月21日	1977年6月1日
資本金	152億31百万円	1億円	1億円	80百万円	22百万円	70百万円
売上高(2003年度)	1,861億76百万円	69億7百万円	210億96百万円	50億62百万円	64億54百万円	78億83百万円
従業員数	1,729人	329人	448人	864人	319人	541人
主な事業内容	コカ・コーラ、スプライト、ファンタおよびジョージア等の飲料の製造・販売	飲料の製造	飲料の販売	自動販売機のオペレーション業務	自動販売機関連事業	貨物自動車運送業
対象地域	広島県・岡山県・山口県・島根県 鳥取県・福岡県・佐賀県・長崎県	広島県・佐賀県	広島県・岡山県・山口県・島根県 鳥取県・福岡県・佐賀県・長崎県	広島県・岡山県・山口県・島根県 鳥取県・福岡県・佐賀県・長崎県	広島県・岡山県・山口県・島根県 鳥取県・福岡県・佐賀県・長崎県	西日本地域



コカ・コーラウエストジャパングループ

ご意見・ご感想は、下記までお聞かせください。

コカ・コーラウエストジャパン株式会社 環境推進室

〒812-8650 福岡市東区箱崎七丁目9番66号 TEL 092-641-9118 FAX 092-641-9128 ホームページ <http://www.ccwj.co.jp/>

